

研究業績の状況報告書

令和 年 月 日

所 属

職 名

氏 名

印

核融合科学研究所研究教育職員の再任評価に関する申合せ（平成17年2月18日付け所長決定）に基づき、任期を定めて採用等された日から現時点までの学術成果について、研究業績リストとともに下記のとおりに研究業績の状況を報告します。

記

－任期中の学術成果－

- ☐ レフェリー付き学術雑誌に主著論文を公表（ 編）
（~~論文業績リスト及び~~論文の別刷（もっとも重要な2編）を添付すること。）
- ☐ 同等の成果
（該当するものに○を付し、~~論文業績リスト及び~~論文等別刷を添付すること。）
〔 学術図書・レビュー論文・主要な国際会議の招待講演・
I A E A論文・データベースの作成・学術的成果への受賞 〕
- ☐ 投稿予定の研究業績等
（~~リスト及び~~資料がある場合は添付、ない場合は300字以内の概要説明を添付）

〔自己申告欄〕

上記の成果により私は、

- ① ☐ 既に評価基準を満たしている。
- ① ☐ 現時点では評価基準を満たせないが、任期満了までには満たせる。
- ② ☐ 評価基準を満たすことは困難な状況である。（理由）

(案)

任期を定めて採用等された研究教育職員の再任評価 に基づく研究業績リスト作成基準について

核融合科学研究所職員の任期を定めて採用等された研究教育職員の再任評価に用いる研究業績リスト作成基準は以下のとおりとする。

研究業績リストには始めに

○作成年月日・所属・身分・氏名を書いて、論文等を記載する。

全体的注意として。

- ワープロ使用のこと。
- 各ページ毎に右肩に本人の氏名を書く。
- 各ページ中央下にページを打つ。
- A4版片面に出力する。

以下該当項目の作成基準を書く。

(I) レフェリー付き学術雑誌の主著論文

- 著者、タイトル（イタリック体が望ましい）、学術誌名の順に一つの論文を書く。
- 著者は全員書く。
- 本人名の下にアンダーラインを引く。
- 名前は原則として T a r o Y a m a d a, H a n a k o S u z u k i のように書く。
場合によっては、T. Y a m a d a, H. S u z u k i でもよい。
- 学術誌は完全な名前（正称）を書く。その後、号、巻、（年）、p p. ○～○. を書く。
- 日本語で書かれた論文は日本語で書く。
- 英語、日本語以外の言語で書かれた論文は、その言語で書き、そのあとに英語訳を添付すること。英語訳のある論文は（例えば J E T P など）英語訳論文とともに原著論文も書くこと。

(II) 学術図書

- 著者名、本の名、出版社、発行年

(III) レビュー論文

- 書き方は（I）のレフェリー付き学術雑誌の主著論文に従う。

(IV) 主要な国際会議などにおける発表

- E P S, A P S, など国際会議で発表した論文を書く。会議名、開催場所、開催年月日を記載し、会議録(p r o c e e d i n g s)があればその巻・号・年・ページを書く。
- 書き方は（I）のレフェリー付き学術雑誌の主著論文に従う。会議名は完全なもの（正称）を書く。
- 各々に出席、出席・口頭発表、出席・ポスター発表、出席・座長などを書く。
（出席しなかった場合は何も書かない）
- 日米協力等のワークショップでの発表は書かない。
（書きたいときは（~~X~~ ~~VIII~~）のその他の欄に書くこと）

(V) I A E A 論文

- 書き方は（I）のレフェリー付き学術雑誌の主著論文に従う。

(VI) データベースの作成、学術的成果への受賞等

- 書き方は（I）に準ずるものとする。

(VII) 投稿予定の研究業績等

- 書き方は（I）に準ずるものとする。

(VIII) 共著論文（参考業績）

- 書き方は（I）のレフェリー付き学術雑誌の主著論文に従う。

(IX) 外部資金（科学研究費補助金等）獲得状況（参考業績）

- 任期期間中に研究代表者として採用された研究費名（科研費の場合は、種別まで）、研究課題名、研究期間（年度）、金額（総額）を書く。

○外部資金は、同様の研究費名の場合でも研究課題ごとに記載する。

(XⅣ) その他(参考業績)

- 著者にとって重要と思われる印刷物を書いてもよい。例えば解説、講座、NIFSレポート（論文リストと重複しないものに限る）
- 書き方は（I）に準ずるものとする。